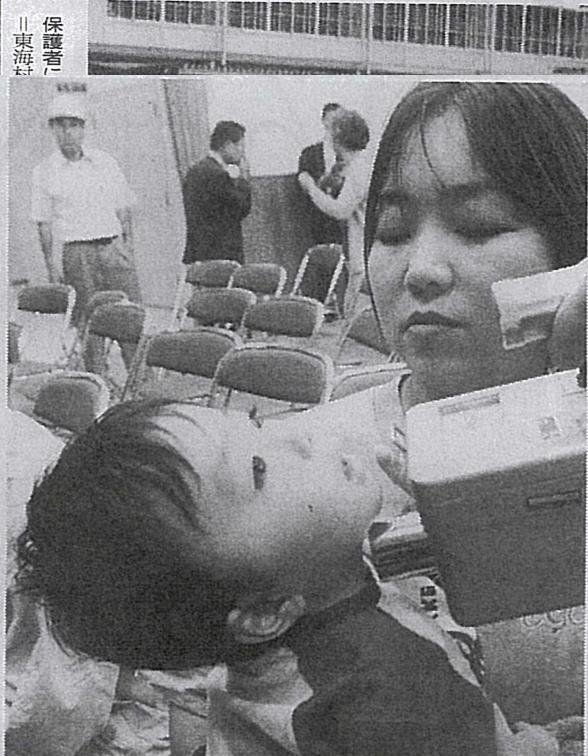


原告谷田部裕子本人尋問

甲F第132、133号証

透明汚染の恐怖

■ 保護者 東海村



東海村の臨界事故

■ 東海村役場

東海村役場にジャー・シー・オーカ
ラ事故の一報が入ったのは、発生から
一時間後の午前十一時三十四分。「作
業員が被ばくし、病院に運ばれた。臨
界事故の可能性あり」などと書かれた
ファクスが一枚、送られてきた。

■ 東海村役場

村上達也村長は不在で
助役や総務部長らが協
し、正午に災害対策連絡
議会を設置した。午後零
十五分には村職員の約三
〇〇人に当たる約百五十人
災害対策本部を設置した。
午後零時半、防災無線

■ 村民、避難 原電職

避難要請は事故
「子供に影響は」「しつか
少ない情報、

安全性への不安がまたも現実となった——東海村のウラン加
工場は見えない放射線による被ばくの恐怖。県や村は
民は情報がなかなか伝わらないことにいらだちながら不安

甲F第134号証

子の危機、親の責任

原子力、改めて

「『ナージャの村』　自
主上映会の呼びかけ」

隣接する那珂町の主婦谷
田部裕子さん(四二)は、手書
きのメモを取り出した。

東海村の旧動燃で火災、
爆発事故があつた一年後の
一九九八年に書いた。旧ソ
連のチエルノブイリ原発事
故で、立ち入り禁止になつ

た村に住み続ける家族のド
キュメンタリー。メモは
二、三人の仲間には見せた
が、実現はしなかつた。

「今度こそ上映会を開こ
う」。そう誓つたのは九月
三十日夕、玄関でずぶぬれ
になった中学二年生の娘の
姿を見たときだつた。

自宅は事故現場から約二
十階

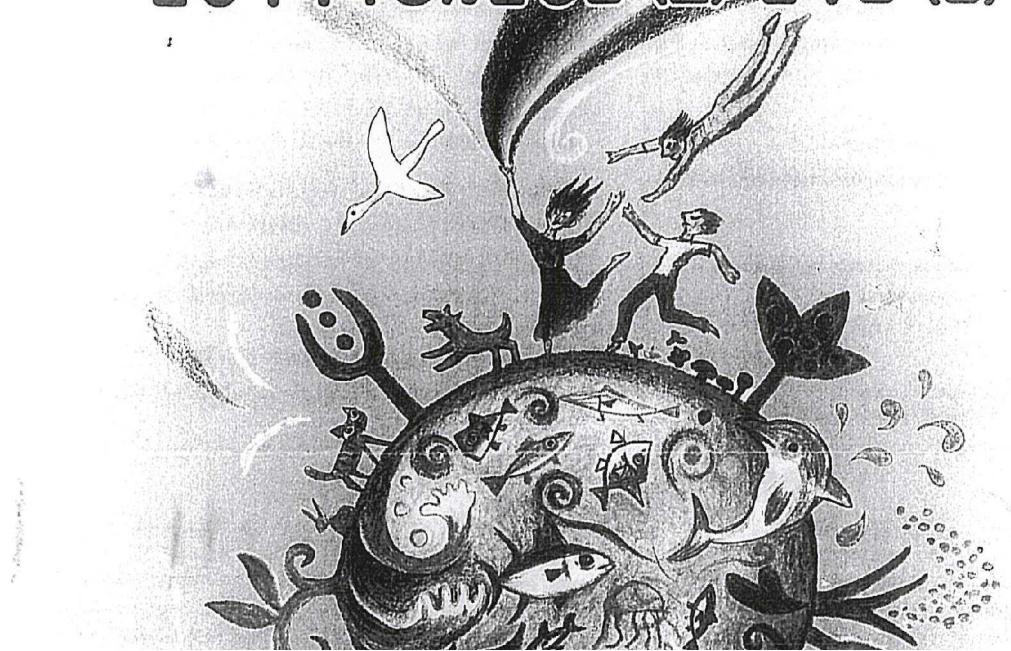
甲F第135号証

甲F第135号証

ハイロアクション福島原発40年オープニングイベント

福島原発40年と
わたくしの未来

2011年3月26日(土) 27日(日)





甲F第136号証3枚目



甲F第●号証写真①



大地が揺れ、裂け、崩



茨城県は県北で震度6強、その他の広い地域で6弱が観測された。道路は大きく裂け、住宅は傾きつぶれ、ビルのガラスが割れ、外壁もはがれ落ちた。

大谷石の埠は路上に崩れ落ち、墓地での乗用車が押しつぶされたでにぎわっていた偕楽園もあり、好文亭は土壁が落ちた。鹿島神宮のコンクリート製壊。各地の重要文化財も

甲F第138号証
2枚目右の写真



甲F第138号証
3枚目右頁下段
右から2番目の
写真



甲F第138号証
4枚目左頁上段
1番左の写真

土砂崩れで通行止めとなった奥久慈バノラマライン=4月22日、大子町頃藤

甲F第138号証4枚目左頁下段の写真



甲F第138号証4枚目右頁下段の写真



甲F第138号証6枚目左頁の写真



甲F第138号証7枚目左頁の下の写真

